令和2年度　環境で地方を元気にする
地域循環共生圏づくりプラットフォーム事業

キックオフミーティング　発表資料

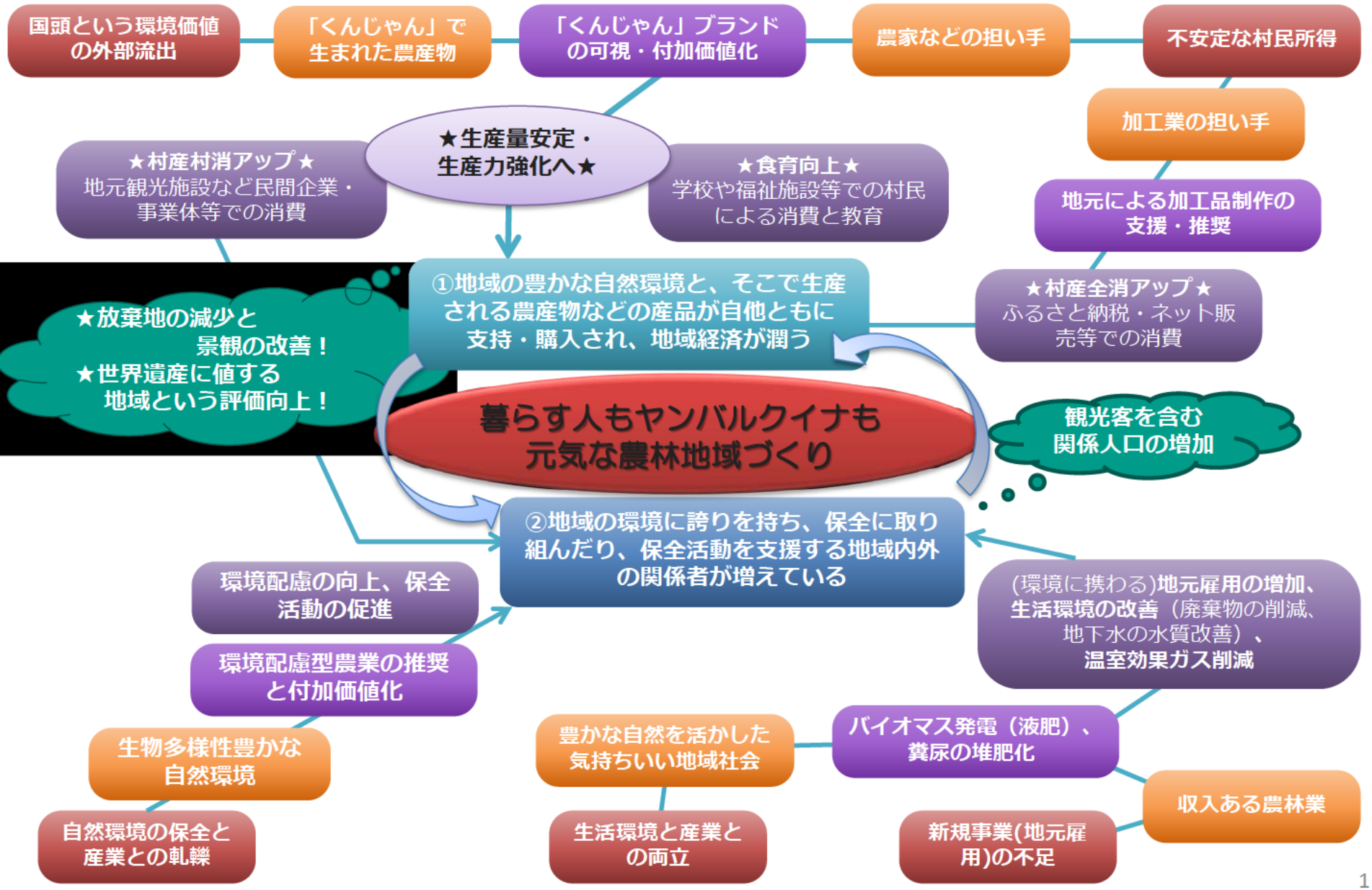
活動団体名：国頭村役場
活動地域　：国頭村内

やんばるふんばる
国頭村
KUNIGAMISON
沖縄県

活動におけるテーマ

暮らす人もヤンバルクイナも元気な
農林地域づくり
～豊かな自然を活かした地域産物の付加価値化
と地産地消の推進～

地域循環共生圏を実現することで目指す地域の姿



昨年度の取組の概要（仮説と実践、気づき）

当初予定していた取組

- 地産地消の促進
  地産地消協議会の再興
  （関係者の巻き込みを図る）
- 有識者招聘・先進地視察
  世界遺産等の付加価値化、地産地消推進や畜産糞尿の堆肥化事業の先進地視察
  （行政機関及び農家など協議会メンバーの豊かな自然環境を活かした第一次産業に対する意識醸成を図る）

実践の中での気づき

- 地産地消推進協議会において農林水産物の需要と供給のバランスを図る必要性
- 国頭村として「地産地消推進」「世界自然遺産地域という付加価値化」を重要施策のひとつに位置付け、道筋を作った上で生産者を誘導する必要性
- 生活環境改善・世界自然遺産に値する地域づくりに向けた行政としての責務と、農家等による環境配慮に向けた取組との方向性を整理し、互いに連携した施策を検討する必要性

実際に行った取組

- 地産地消推進協議会の再興とともに、会長職の引き上げ(課長→副村長)、村長任命による委員の再構成等を実施
- 協議会委員に対する積極的なヒアリングにより、現時点での需要と供給量を把握した上で、更なる需給促進に向け、流通等担当者を招集した部会設置を検討
- 村の重要施策として位置付けられるよう「国頭産」と記された地産地消啓発ロゴ、旬カレンダーを作成（デザインまで）
- 畜産糞尿等の堆肥化などの環境配慮や地産地消推進を図る先進地視察を主導（地元農家が堆肥化施設の導入を検討している情報も取得）

事業のタネ2つ

- 地産地消の向上

第1次産業の生産力増大による持続的な経済順化を促進。特に「村産村消」は、生産者の顔が見える需給関係、食糧自給率や食育の向上に繋がるため、村として優先事業と考える。

- 畜産糞尿の堆肥化

畜産糞尿の堆肥化促進により、資源循環の向上のみならず悪臭対策にも繋がり、自然環境が豊かな気持ちの良い生活環境と産業の両立を目指す。

昨年度の取組を踏まえた課題とその対応

環境整備についての課題

- 地産地消（特に村内消費）の推進を村の重要施策のひとつに位置づけた上で、地産地消協議会の機能の明確化を図り、持続的な需給安定に向けた施策を展開していく必要がある。
- 施策推進において、委員など関係者との連携を強化しつつ、福祉・教育関係者など連携対象の幅を広げることで、村全体の一体感を出せる。
- 第一次産業に特化したマンダラに、村の一大産業のひとつである第三次産業を盛り込む必要がある。

環境ローカルビジネスの事業化に向けた課題

- 小規模な農家が占める本村において、糞尿など堆肥原料の総量が未算定であるとともに、堆肥の需要量も把握されていない。
- 一括した堆肥化施設導入事業の費用対効果や、生活環境（悪臭等）がどの程度低減されるか不明瞭であることから、行政機関がある程度主導することが妥当なのか検討する必要がある。
- 希少種の保護と農作物の食害問題の解消を目指す手法の検討段階である。

課題を打破するための今年度の取組

- 第一次産業の活性化に向けた地産地消推進施策について、村内の一体感が視覚的に認知されるよう、協議会委員（村産農林水産物の販売・提供店等）と連携して普及啓発物を積極的に掲出する。
- 村産物の需給増大に向け、協議会に専門部会を設置し、村産品の利活用について具体的かつ積極的な事業展開を検討する。
- 今後の村施策の継続性・具体性を確保するため、地産全消推進に向けた実施計画を作成する。
- 堆肥原料となる糞尿量及び堆肥需要量の算定を図る。
- 豚の糞尿堆肥化事業の先進地視察や事例収集を行い、畜産農家の環境配慮に対する意識醸成を図るとともに、行政機関として事業の費用対効果及び事業による環境改善効果を検討する。

今年度の新たなチャレンジと到達目標

新たにチャレンジしたいこととその具体的な取組

- **地産地消の向上による村産物の需給増大**

・村民の地域産物に対する関心を深める（旬カレンダーの村民配布）

・村産村消の重要性に関して広く普及啓発する

（村産物を利用する村内飲食店等における旬カレンダーやのぼりの掲出促進）

・地産地消協議会を通して村産村消事業展開を具体化する

（専門部会の設置、通年の生産量と需要量が記された資料（旬カレンダーを含む）を用いた生産者と消費者とのマッチング推進）

・村産全消も含めた今後の施策方針を検討する（地産地消推進計画の作成、マンダラのブラッシュアップ）

- **畜産糞尿の堆肥化事業による環境保全（環境配慮型農業）の推進**

・堆肥化事業の費用対効果を具体的に検討する

（堆肥原料及び堆肥需要量に関する情報収集、農家による堆肥化推進の進捗状況ヒアリング、養豚糞尿の堆肥化先進地事例の情報収集）

・官民連携による堆肥化事業推進に向けた意識醸成（養豚糞尿の堆肥化先進地視察、協議会での意見交換）

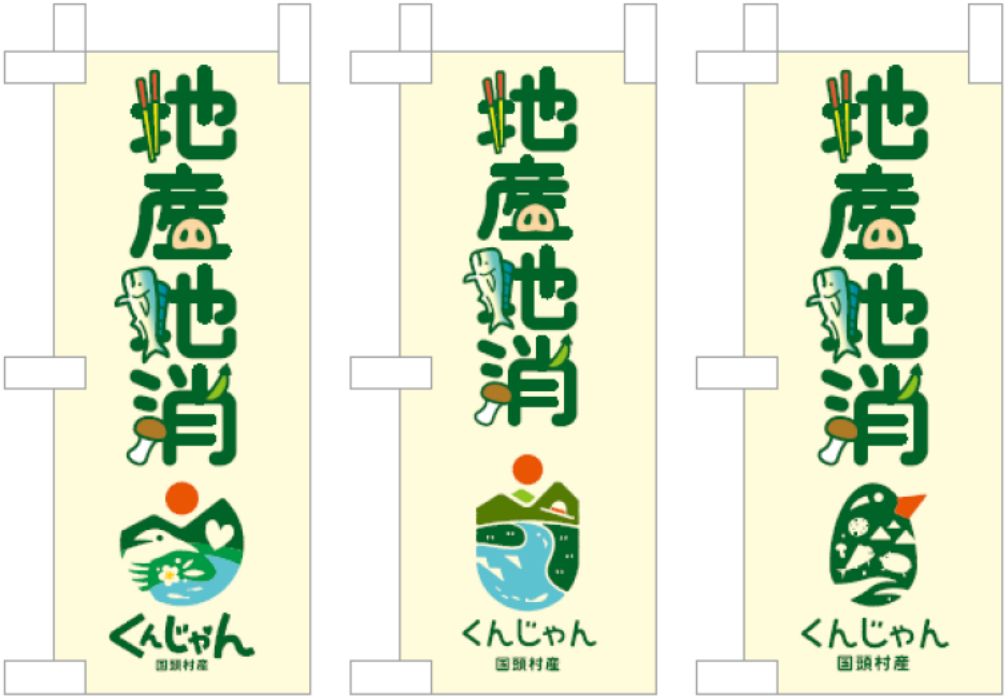
今年度の到達目標

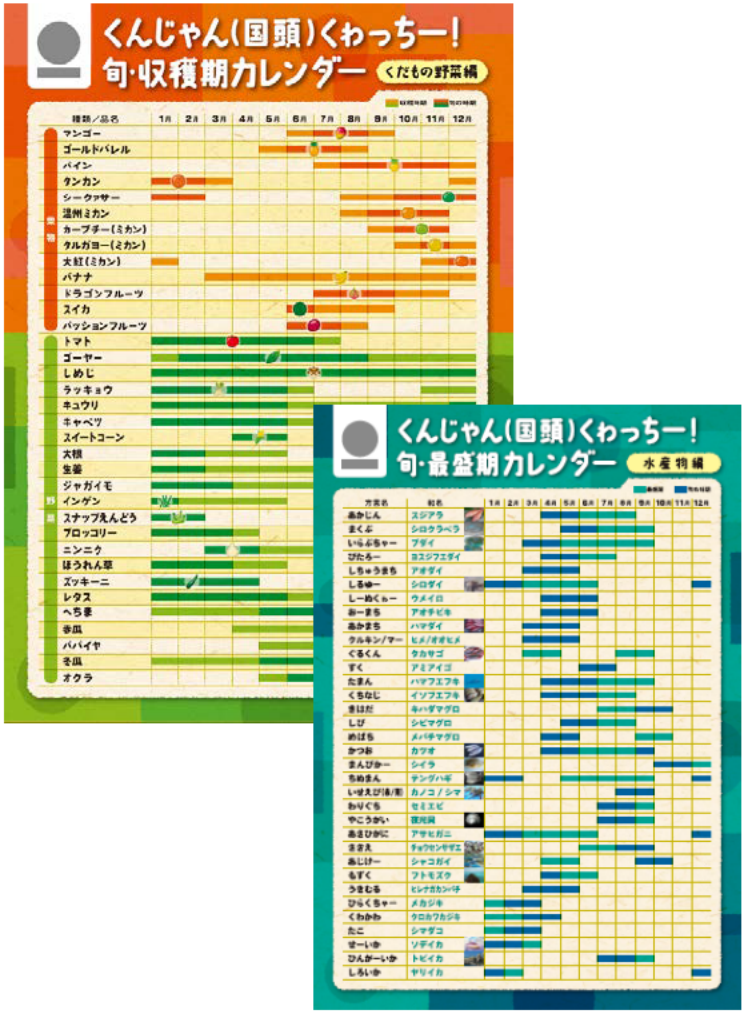
- 地産地消及び村産物に対する認知度アップ
- 村産村消事例の増加（又は村内消費量の増加）
- 堆肥化事業（環境配慮型農業）の実現可能性や希少種による食害防止策の検討結果についても可能な限り盛り込んだ地産地消推進計画の策定と推進方針に対する関係者間の意識醸成

今年度の新たなチャレンジと到達目標

新たにチャレンジしたいこととその具体的な取組

- 地産地消の向上による村産物の需給増大





年間スケジュール

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
事業全体の予定			◆協定締結（活動予算執行開始	◆キックオフミーティング		現地意見交換会			◆中間報告書提出期限 活動団体成果報告書提出◆		◆成果報告会	
話を聞きに行く！							◇地産地消協議会（作業部会）村産品の利活用について具体的な事業展開を検討する。					
地域のコンセプトを描く！					◇第1回地産地消協議会 ①地産地消推進に向けた取り組みについて ②地産地消推進計画策定に向けた意見交換			◇豚の堆肥化先進地視察				
事業のストーリーを語る！									旬カレンダー・のぼりによる村産物の需要増大			◇第2回地産地消協議会 ①地産地消推進計画案審議
地域の目標を立てる！								地産地消推進計画案作成				

最後に

新規に取り組む団体へメッセージ

- 本事業の活用を通して、環境省をはじめ関係機関と意見交換する場があるため、第三者的立場からの新しい知見や意見を収集することができ、視野を広げるきっかけになる。
- マンダラの作成手法や改善点について助言をもらいながら、関係機関内でオーソライズされることで、今後の施策方針を掲げた各種計画を策定する際の参考にできる。
- 環境保全と地域経済の好循環化を進める施策として、自然環境に配慮したエコツーリズムの推進だけでなく、第一次産業の活性化からスタートする生活環境の改善と自然環境の維持・保全を見据えられたので、持続可能な村づくりを進める地域行政として、今後の施策展開を多角的に検討することができる。

こんなことを助けて欲しい！

- 養豚糞尿の堆肥化を実践している地域や実施団体の紹介
- 地産地消推進に係る計画策定の優良事例の紹介
- 次年度以降の施策展開に対する意見や各種環境省等事業活用の可能性に関する助言